

第六類 第九號

第九十回帝國議會 會計法戰時特例廢止等に関する法律案委員會會議錄(速記)第七回

(七八)

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
政府出資特別會計法外二十一法令の
廢止等に関する法律案(政府提出)

昭和二十一年七月二十三日(火曜日)午
前十時三十七分開議

出席委員

委員長 坂東幸太郎君

理事青木 孝義君 理事青木清五郎君
理事高津 正道君

田中 實司君

北村徳太郎君

松本 七郎君

竹谷源太郎君

伊藤 恭一君

七月二十日委員菊池長右門君辭任ニ
付其ノ補闕トシテ田中實司君ヲ議長ニ
於テ選定シタ

同月二十二日委員伊藤實雄君辭任ニ付
其ノ補闕トシテ竹谷源太郎君ヲ議長ニ
於テ選定シタ

出席國務大臣

大藏大臣 石橋 湛山君

出席政府委員

復興事務官 遠藤 武勝君

復興事務官 山本丑之助君

內務事務官 世耕 弘一君

大藏事務官 加藤 八郎君

大藏事務官 石原 周夫君

本日ノ會議ニ付シタ議案

政府出資特別會計法外二十一法令廢
止等に関する法律案(政府提出)

○坂東委員長 是ヨリ會計法戰時特例
廢止等ニ關スル法律案ノ委員會ヲ開キ
マス、本日ハ併シテレマシタ政府出
資特別會計法外二十一法令の廢止等
に関する法律案アリマス、念ノ爲メ以

上ノ法令ヲ委員長カラ報告致シマス、
即チ政府出資特別會計法、營繕用品資
金特別會計法、陸軍作業會計法、海軍
工廠資金會計法、朝鮮鐵道用品資金會
計法、朝鮮簡易生命保險及郵便年金特
別會計法、朝鮮食糧管理特別會計法、
臺灣總督府特別會計法、臺灣食糧管理
特別會計法、臺灣事業用品資金特別會
計法、樺太廳特別會計法、關東都府府
特別會計法、南洋廳特別會計法、大正
十二年法律第七號、昭和八年法律第十
五號、昭和十一年法律第四號、昭和十
二年法律第九號、昭和十三年法律第二
十二號、昭和十三年法律第二十三號、
昭和十五年法律第十四號、昭和十七年
法律第二十三號、明治四十四年勅令第
四百六號、以上全部ヲ議題ニ供シマシ
テ政府ノ説明ヲ求メマス

○石橋國務大臣 政府出資特別會計法
外二十一法令ノ廢止等ニ關スル法律案
提出ノ理由ニ付キマシテハ、曩ニ本會
議ニ於テ大體申上ゲマシタ通りデアリ
マスガ、今回本委員會ニ付託トナリマ
シタニ付テ、其ノ大要ヲ御説明申上ゲ
マス

第一ハ特別會計法ノ廢止等ニ付テデ
ゴザイマスガ、其ノ一ツハ歲計ノ統一
的經理ニ關スル原則ニ對スル例外デア
リマス所ノ、特別會計ヲ出來ル限度ニ
於テ少ク致シマシテ、會計制度ヲ簡明
ニスルコトガ必要デアルト考ヘラレマ
スルノデ、其ノ趣旨ノ下ニ、今回比較
的設置ノ理由ヲ失フニ至リマシタ政府
出資及ビ營繕用品資金ノ二ツノ特別會
計ヲ廢止致サウトスルノデアリマス

第二ハ終戰ニ伴ヒマシテ、既ニ存置ノ
理由ヲ全ク失フニ至リマシタ所ノ舊陸海
軍關係ノ陸軍造兵廠、陸軍製械廠、海軍
工廠資金、海軍火藥廠、海軍燃料廠ノ五
ツノ特別會計ト、ソレカラ朝鮮總督府、臺
灣總督府、樺太廳、關東局及ビ南洋廳ノ
特別會計等、所謂外地關係ノ十特別會
計ヲ廢止致サウトスルノデアリマス、
而シテ是等ノ各特別會計ハ、何レモ本年
度ニ入りマシテカラハ事實上其ノ機能
ヲ停止致シテ居ルノデアリマシテ、今
上ニハ支障ヲ來サナイモノデゴザイマ
ス、以上ノ如ク今回廢止致シマシタ特別
會計ハ、其ノ數ガ合計十七デゴザイマ
ス、更ニ曩ニ廢止致シマシタ臨時軍事
費特別會計ヲ加ヘマスト、前年度ニ比
較致シマシテ、特別會計ガ十八減少ス
ルコトニ相成リマス、サウシテ昭和十
一年度ニ於ケル特別會計ノ數ハ、殘
ツテ居リマスモノガ二十二ト云フコト
ニナルノデアリマス、尙ホ以上申上ゲ
マシタ各特別會計ノ廢止ニ伴ヒマシ
テ、之ニ關聯スル大正十二年法律第七
號東京砲兵工廠及ビ大阪砲兵工廠の各
特別會計の合併に関する法律等ノハツ
ノ法律モ此ノ際併セテ廢止スルコトニ
致シタノデアリマス

ソレカラ次ハ特別會計法ノ一部改正
デアリマスガ、其ノ中作業會計法、厚
生保險特別會計法及ビ簡易生命保險及
郵便年金特別會計法ノ一部改正ハ、
何レモ以上申述ベシマシタ特別會計ノ廢
止ニ伴フ所ノ所要ノ改正デゴザイマス
ソレカラ次ニ地方分與稅分與金特別

會計法ノ一部ノ改正デアリマスルガ、
此ノ會計ノ所屬トナツテ居リマス所ノ
地租、家屋稅、及ビ營業稅ノ收入ハ、
從來會計事務ノ簡捷上、會計法戰時特
例第十三條ノ規定ニ依リマシテ、一般
會計ニ便宜所屬セシマシテ、一般會
計カラ稅收額ヲ前述ノ地方分與稅分與
金特別會計ニ繰入レテ參ツタノデアリ
マス、然ルニ今回會計法戰時特例ガ廢
止サレルコトニナリマスノデ、此ノ制
度ハ地方分與稅分與金特別會計ノ收入
事務取扱機關ノ實情ニ鑑ミマシテ、尙
ホ當分ノ間存續セシメマシテ、從來通
リ會計事務ノ簡捷ヲ圖ルノヲ適當ト認
メ、之ニ關スル所要ノ改正ヲ行ハウト
スルモノデアリマス

其ノ次ニ食糧管理特別會計法ノ一部
改正デゴザイマスガ、其ノ一ハ證券ノ
發行限度ニ關スル改正デアリマス、其
ノ限度額ニ付キマシテハ、現行法ニ於
キマシテ食糧ノ買入代金交付ノ爲ニ發
行スル證券ノ最高發行限度額三十八億
圓ト、會計法戰時特例ノ第十三條ノ規
定ニ依リマシテ、便宜同會計ノ所屬ト
致シテ居リマス米穀ノ生産確保補給金
交付ノ爲ニ發行致シマスル證券ノ最高
發行限度額十四億圓ト、合計五十二億
圓ト相成ツテ居リマスノヲ、今回之ヲ
一本ニ統合致シマシテ、其ノ區分ヲ廢
止致シタノデアリマス、其ノ二ハ同會
計ノ將來ニ於ケル決算上ノ損失ヲ、一
般會計カラ補填シ得ル途ヲ開イテ置キ
マシテ、同會計ノ運轉ヲ一層圓滑ナラ
シメントスルモノデアリマス、尙ホ之
ニ關スル一環ノ措置ト致シマシテ、現

在同會計ノ負擔ト相成ツテ居リマスル
證券ノ中デ、大體從來迄ノ損失額ニ相
當スル四十億圓ヲ限リマシテ、一般
會計デ肩替リ致シマシテ、此ノ會計ノ
運轉ヲ更ニ活潑ナラシメントスルモノ
デアリマス

ソレカラ其ノ次ハ通信事業特別會計
法ノ一部改正デゴザイマスガ、其ノ中
ノ一ハ、從來會計法戰時特例ノ第十三
條ノ規定ニ依リマシテ、一般會計所屬
ノ電氣試驗所ニ要スル經費及ビ收入
ハ、之ヲ通信事業特別會計ノ所屬トシ
テ經理致シテ參ツタノデアリマスガ、
終戰後ノ電氣試驗所ニ於キマス試驗研
究等ノ内容ハ、戰時中ト一變致シマシ
テ、通信事業ニ關スルモノガ大部分ト
相成リマシタ關係上、之ヲ此ノ際通信事
業、特別會計法第一條ノ通信事業ニ含
メマシテ、同會計ノ歲入歲出トシテ經理
スルノヲ適當ノ措置ト考ヘマシテ、之
ニ要スル改正ヲ行ハウトスルノデア
リマス、其ノ二ハ、通信事業特別會計
ノ收支狀況及ビ資本勘定ノ性質ニ顧ミ
マシテ、此ノ特別會計法第二條ニ規定
シテ居リマス公債ノ財源トシテ支辨シ
得ル經費ノ範圍ヲ擴張致シタイ爲ニ、
之ニ關スル所要ノ改正ヲ行ハウトスル
ノデアリマス、尙ホ是等ノ外、豫備費
ヲ以テ支辨シ得ル事由ノ範圍ノ擴張
等、二、三ノ改正モ併セテ行ヒタイノ
デアリマス

其ノ次ハ帝國鐵道會計法ノ一部改正
デゴザイマス、是ハ通信事業特別會計
法ノ改正ニ付テ以上申上ゲマシタ同
様ノ趣旨ニ依リマシテ、帝國鐵道會計

第六類第九號 會計法戰時特例廢止等に関する法律案委員會會議錄 第七回 昭和二十一年七月二十三日

三七

法第二條ニ規定シテ居リマス、公債ヲ財源トシテ支辨シ得ル經費ノ範圍ヲ擴張致サウトスルノデアリマス

ソレカラ第三ハ、國有財産法ノ一部改正ニ付テデアリマスガ、國有財産法第二十六條ノ規定ニ依リマス、政府ハ毎會計年度ノ國有財産増減總計算書ヲ調製致シマシテ、會計検査院ノ検査ヲ經テ、帝國議會ニ報告スルコト云フコト

ニナツテ居リマス、隨ヒマシテ昭和十九年度分國有財産増減總計算書ヲ調製致シマシテ、帝國議會ニ報告致スベキモノデアリマスガ、此ノ十九年度分ハ、戰災等ニ依リマシテ其ノ調製ガ甚ダ困難デアリマス、又國有財産ノ増減ガ、十九年度分ノモノカ、或ハ二十年度分ノモノカト云フ其ノ區分ノ不明瞭ナモノモ、相當ノ件數ニ上ルモノト考ヘラレマス關係上、已ムヲ得ズ昭和十九年度分ノ國有財産増減總計算書ヲ獨立ノモノトシテ調製致シマスコトハ困難デアリマス、特ニ之ヲ省略致シマシテ、昭和二十年年度分ト一括調製シテ、帝國議會ニ報告ヲ致スベキニ御願ヒテ致シタイ、其ノ趣意ニ依リマシテ國有財産法中ニ關スル改正ヲ行ヒタイデアリマス

最後ハ、昭和二十年年度法律第十九號、地方鐵道及軌道ニ於ケル納付金等ニ關スル法律ノ一部改正デゴザイマスガ、現在此ノ法律ニ依リマシテ納付致シテ居リマス納付金ハ、帝國鐵道會計資本勘定所屬ノ特別ノ資金トシテ經理致スノデアリマシテ、其ノ一部ハ臨時軍事費特別會計ヘノ繰入金ニ充用致シテ參ツタデアリマスガ、御承知ノ如ク臨時軍事費特別會計ハ、本年二月末日限り廢止致サレマシタノデ、今後之ヲ一般會計ヘノ繰入金ニ充用スルヲ適

當ト認メマシテ、右ノ法律中所要ノ改正ヲ行ハウトスルモノデアリマス、以上述ダ簡單デゴザイマスガ、一應ノ御説明ヲ終リマス、ドウゾ御審議ノ上、御賛成アラントヲ御願ヒ致ス次第デアリマス

○坂東委員長 此ノ際參考資料ノ要求ガゴザイマスレバ御發言ヲ願ヒマス、如何デスカ

○青木委員 參考資料等ハ、尙ホモウ少シ詳細ニ御説明ヲ承リマシテカ、改メテ氣ノ付イタモノヲ御願ヒ致シタイ

○坂東委員長 此ノ際事務的ニ更ニ細カイ御説明ヲ御願ヒ致シマス——大藏事務官石原周夫君

○石原政府委員 ソレデハ此ノ特別會計ノ廢止ニ關シマス只今大臣カラ御説明ニナリマシタコトニ、逐條的ニ若干補足御説明ヲ致シマス

先ツ第一條ハ、今回廢止ヲ致シマスル法律及ビ勅令デアリマスガ、先程大臣カラ御説明ガゴザイマシタヤウニ、今回之ニ依リマシテ十七ノ特別會計ヲ廢止シマス、殘ルモノハ二十二、之ニ付テ一々申上ゲルコトハ非常ニ時間ガ掛リマスノデ省略致シマス、大體把ニ中シマシテ、大體作業或ハ事業、印刷、造幣局、或ハ專賣局、サウ云ツタ作業ニ屬シマスルモノ、ソレカラ預金部資金、或ハ金貨資金、サウ云ツタ資金ノ運用ヲ致シマスル爲ニ、之ヲ別途ニ計上致シマスル性質ノモノデアリマス、ア

ハ厚生省ガ大部分ゴザイマスガ、保險ヲ扱ヒマスル色々ナ會計、之ヲ特別會計トシテ別途ニ計上シテアリマス、ソレカラ作業ト申シマスルヨリ事業ト申シタラ宜シイカト思ヒマスルガ、農林省ノ方ニ於キマスル食糧管理、或ハ木

炭需給調節トカ、政府ガ一定ノ統制的ナ實質操作ヲ致シマス、サウ云ツタモノガ主タルモノデアリマス、之ヲ整理ヲ致シマシテ、殘リマスモノハ、現在ノ事情ニ於キマシテハ出來ルダケ特別會計ヲ整理致シマシテ、一般會計ニ集

中ヲ致シ、分リ宜イヤウニ致シタイト云フ大キイ目標カラ致シマシテモ、尙ホ殘スノガ已ムヲ得ナイと思ハレルモノガ殘ツテ居ル譯デアリマス、列舉致シテアリマスル特別會計ノ内容ニ付キマシテハ、又御質問ガゴザイマシタ場

合ニ、ソレハ、御答ガアルコトダと思ヒマスガ、大正十二年法律第七號以下ニ於キマシテ、其ノ法律ナリ勅令ナリノ名前ガ大體括弧書キニゴザイマスルカラ、御分リニナルカト思ヒマスガ、若干御分リニナリニクイモノニ付キマシテハ、先ツ中程ニ大正十二年法律第七號、是ハ大阪及ビ東京ノ砲兵工廠ノ從來別々ニゴザイマシタ特別會計ヲ造

兵廠ト云フ一ツノモノニ致シマシタ法律デアリマス、其ノ次ノ昭和八年ノ法律第十五號ト申シマスルモノハ、此ノ時マデ海軍ノ工廠資金ハ一億圓デアシタノデアリマスルガ、ソレヲ四千圓圓補足ヲ致シテ現在マデ至ツテ居リマス

法律デアリマス

次ニ一般會計乃至特別會計ノ財源ニ充テマス爲ニ、色々特別會計ノ金ヲ繰入レマシタリ、或ハ經營使用ヲ致シマシタリ致シタ、其ノ本ニナツテ居リマスル法律ガ並ンデ居リマスルガ、先ツ最初ガ昭和十一年法律第四號、是ハ昭和十一年度ニ於キマシテ一般會計ノ方

ニ金ヲ流シ込ミマス爲ニ、資金ノ繰替使用ト申シマスモノハ、通信或ハ鐵道ト云フヤウナ特別會計ニ於キマシテ、資金ヲ一時一般會計ニ繰替ヘテヤツテ

居ル、斯フ云ツタコトヲ致シマシテ、其ノ當時ノ一般會計ノ資金ヲ充足致シタ譯デアリマス、尙ホ此ノ際、今申上ゲマシタ通信、鐵道以外ニモ、關東、朝鮮、臺灣、樺太、南洋ノ各廳カラ繰入ガゴザイマス、ソレヲ名前ガ分リニクイノデゴザイマスガ、繰替使用等ト「等」ガゴザイマス、此ノ「等」デハ外地關係ノ繰入モ併セ調整シタ譯デアリマス

次ハ昭和十二年ノ法律第九號デアリマスルガ、是ハコレカラ以後ニ於キマシテハ、通信モ鐵道モ外地モ總テ繰入レテ、十一年ノ法律ノ時ニモ第二號ガゴザイマシテ、即チ一般會計ニ返ス規定ガアツタノデアリマスガ、十二年ノ規定ニハ將來一般會計ニ返スト云フ規定ノ外ニ、一般會計ニ繰入レル方式ヲ取ツタノデアリマス、此ノ繰入レマシタ特別會計ハ、先程申シマシタ同様デアリマシテ、通信、鐵道、關東、朝鮮、臺灣及ビ南洋廳、樺太廳ト云フヤウナ外地ノ會計デアリマス、昭和十三年カラ臨時軍事費ノ財源ト云フコトニナリマシテ、此ノ場合ニ於キマシテハ、先程申上ゲマシタ各種ノ特別會計ノ中デ、南洋廳ガ除カレテ居リマス、南洋廳ハ從來通り一般會計ニ繰入レラ

レ、ソレ以外ノ會計ハ臨時軍事費ニ繰入レルト云フコトニナリマシテ、返還ノ規定ハ臨時軍事費カラ返還スルノデナクテ、將來一般會計カラ返還スルコトニナツテ居リマス、ソレカラ租稅收入ノ一部ニ相當スルモノハ、内地ニ於キマシテ増稅ヲ行ヒマスノト併行シマシテ、外地ニ於キマシテ増稅ヲ致シマス、其ノ増稅ノ增收ノ中ノ相當額ヲ一般會計ニ繰入レルト云フノガ此ノ十三年ノ法律デアリマス、ソレガ大體一

般會計乃至臨時軍事費特別會計ニ繰入レハ繰替使用ヲ致シマシタ其ノ基礎ニナツテ居ルノデアリマス

ソレカラ昭和十五年ノ法律第十四號ト申シマスノハ、船員保險ノ内地外地各々ヤツテ居ル譯デアリマスガ、船員ハアツチコツチ動キマスルノデ、隨テ其ノ内地外地各々ヤツテ居リマス所ノ船員保險ノ事業ニ付キマシテ、内地外地間ノ分擔ヲドウスルカト云フ問題ヲ決メタノガ此ノ法律デアリマス

次ガ陸軍作業會計法及ビ海軍工廠資金會計法ノ臨時條例ニ關スル法律デアリマス、是ハ材料ヲ政府カラ官給致シマスル代リニ、此ノ作業會計法及ビ工廠資金會計法ニ依ツテ縛ラレル所ノ陸海軍ノ作業廠ガ、一遍民間ニ賣拂ヲ致スコトガデアリマス、斯ウ云フコトヲ致シマシテ、其ノ當時ノ軍需物資ノ調辦ノ圓滑ヲ期シタ譯デアリマス

最後ノ明治四十四年勅令第四百六號ト申シマスルノハ、朝鮮總督府特別會計ガ出來マシタ時ノ勅令デ、是ハ現在ノ憲法ノ第八條及ビ七十條ノ緊急勅令ト云フコトデ特別會計ガ出來タ、其ノ朝鮮特別會計ノ出來マシタ基礎ニナツテ居リマス勅令デアリマス、ソレ以外ノモノハ前ニ御覽ノ通りデアリマスガ、是ハ明治四十四年併合當時出サレタ、隨テ緊急勅令ノ形式ヲ取ツタノデアリマス

次ガ第二條デアリマスルガ、地方分與稅分與金特別會計、是ハ先般御審議ヲ願ヒマシタ會計法ノ廢止ト相表裏スルモノデアリマス、從來ハ地方分與稅分與金特別會計ニ於キマシテ、其ノ收入デアリマス所ノ地租、家屋稅、營業稅ノ收入ヲ、事務上ノ手數ヲ省キマス爲ニ戰時特別ヲ活用致シマシテ、一般會計デ

居ル、斯フ云ツタコトヲ致シマシテ、其ノ當時ノ一般會計ノ資金ヲ充足致シタ譯デアリマス、尙ホ此ノ際、今申上ゲマシタ通信、鐵道以外ニモ、關東、朝鮮、臺灣、樺太、南洋ノ各廳カラ繰入ガゴザイマス、ソレヲ名前ガ分リニクイノデゴザイマスガ、繰替使用等ト「等」ガゴザイマス、此ノ「等」デハ外地關係ノ繰入モ併セ調整シタ譯デアリマス

次ハ昭和十二年ノ法律第九號デアリマスルガ、是ハコレカラ以後ニ於キマシテハ、通信モ鐵道モ外地モ總テ繰入レテ、十一年ノ法律ノ時ニモ第二號ガゴザイマシテ、即チ一般會計ニ返ス規定ガアツタノデアリマスガ、十二年ノ規定ニハ將來一般會計ニ返スト云フ規定ノ外ニ、一般會計ニ繰入レル方式ヲ取ツタノデアリマス、此ノ繰入レマシタ特別會計ハ、先程申シマシタ同様デアリマシテ、通信、鐵道、關東、朝鮮、臺灣及ビ南洋廳、樺太廳ト云フヤウナ外地ノ會計デアリマス、昭和十三年カラ臨時軍事費ノ財源ト云フコトニナリマシテ、此ノ場合ニ於キマシテハ、先程申上ゲマシタ各種ノ特別會計ノ中デ、南洋廳ガ除カレテ居リマス、南洋廳ハ從來通り一般會計ニ繰入レラ

レ、ソレ以外ノ會計ハ臨時軍事費ニ繰入レルト云フコトニナリマシテ、返還ノ規定ハ臨時軍事費カラ返還スルノデナクテ、將來一般會計カラ返還スルコトニナツテ居リマス、ソレカラ租稅收入ノ一部ニ相當スルモノハ、内地ニ於キマシテ増稅ヲ行ヒマスノト併行シマシテ、外地ニ於キマシテ増稅ヲ致シマス、其ノ増稅ノ增收ノ中ノ相當額ヲ一般會計ニ繰入レルト云フノガ此ノ十三年ノ法律デアリマス、ソレガ大體一

般會計乃至臨時軍事費特別會計ニ繰入レハ繰替使用ヲ致シマシタ其ノ基礎ニナツテ居ルノデアリマス

ソレカラ昭和十五年ノ法律第十四號ト申シマスノハ、船員保險ノ内地外地各々ヤツテ居ル譯デアリマスガ、船員ハアツチコツチ動キマスルノデ、隨テ其ノ内地外地各々ヤツテ居リマス所ノ船員保險ノ事業ニ付キマシテ、内地外地間ノ分擔ヲドウスルカト云フ問題ヲ決メタノガ此ノ法律デアリマス

次ガ陸軍作業會計法及ビ海軍工廠資金會計法ノ臨時條例ニ關スル法律デアリマス、是ハ材料ヲ政府カラ官給致シマスル代リニ、此ノ作業會計法及ビ工廠資金會計法ニ依ツテ縛ラレル所ノ陸海軍ノ作業廠ガ、一遍民間ニ賣拂ヲ致スコトガデアリマス、斯ウ云フコトヲ致シマシテ、其ノ當時ノ軍需物資ノ調辦ノ圓滑ヲ期シタ譯デアリマス

最後ノ明治四十四年勅令第四百六號ト申シマスルノハ、朝鮮總督府特別會計ガ出來マシタ時ノ勅令デ、是ハ現在ノ憲法ノ第八條及ビ七十條ノ緊急勅令ト云フコトデ特別會計ガ出來タ、其ノ朝鮮特別會計ノ出來マシタ基礎ニナツテ居リマス勅令デアリマス、ソレ以外ノモノハ前ニ御覽ノ通りデアリマスガ、是ハ明治四十四年併合當時出サレタ、隨テ緊急勅令ノ形式ヲ取ツタノデアリマス

次ガ第二條デアリマスルガ、地方分與稅分與金特別會計、是ハ先般御審議ヲ願ヒマシタ會計法ノ廢止ト相表裏スルモノデアリマス、從來ハ地方分與稅分與金特別會計ニ於キマシテ、其ノ收入デアリマス所ノ地租、家屋稅、營業稅ノ收入ヲ、事務上ノ手數ヲ省キマス爲ニ戰時特別ヲ活用致シマシテ、一般會計デ

取リマシテ、ソレヲ特別會計ニ繰入レ
ルト云フ方式ヲ採ツタノデアリマス、
先日御審議ヲ願ヒマシタヤウニ會計法
戰時特別廢止致シタノデアリマス、
サウカト申シマシテ、又之ヲ特別會計
ガ直接收入スルヤウニ致スト云フコト
デアリマス、此ノ場合戰時特別廢止
ケザルヲ得マセメデシタ障害ガ再ビ生
ジマスノデ、向フノ方デ戰時特別廢止
致シマシタカラ、コナラノ方デ從來
ノ方法ヲ踏襲スルト云フコトヲ可能ナ
ラシメル爲ニ、此ノ規定ヲ置イタ次第
デアリマス、以下ノ規定ハ廢止サレマ
シタ特別會計ノ爲ニ條文ノ整理並ニ之
ニ關聯致シマシテ、特別會計ノ一部ノ
改正ヲ致シマス爲ニ必要ナ規定デアリ
マス

第三條ハ作業會計ニ四ツゴザイマ
ス、茲ニアリマス印刷局、專賣局ノ外
ニ海軍火藥廠、燃料廠ト云フモノガア
ツタ譯デアリマスガ、ソレヲ落シタワ
ケデアリマス、三項ト四項ヲ削リマシ
タノハ、据置運轉資本ノ意味デアリマ
ス、其ノ据置運轉資本ノ規定モ、其ノ
モノガナクナツタノデ規定モ削リタ次
第デアリマス

第四條ハ厚生保險特別會計法ノ改正
デアリマス、第一條第二項ヲ削リ申
シマスノハ、是ハ間モナク御手許ニ關
係條文ヲ差上ゲマスカラ、ソレヲ御覽
ニナレバ御分リニナルト思ヒマス、要
スルニ外地ノ船員保險ハ外地ニ屬ス
ト云フ規定デアリマスガ、外地關係ノ
モノガナクナツタノ第二項モナクナ
ツタ譯デアリマス、以下外地會計ニ必
要ナモノガナクナリマシタモノヲ各々
削除致シマシタ

第五條ニ付キマシテハ、先程大體大
臣カラ御説明ニナリマシタ趣旨ヲ、條

文ノ形デ現ハシテ居ルダケデアリマ
ス、三行目ノ「第六條ノ二を削リ、第
六條ノ三を第六條ノ二とする」ト云フ
コトデアリマスガ、第六條ノ二ト云フ
ノハ一般會計カラノ受入金ヲ規定シタ
モノデアリマシテ、是ハ朝鮮米、臺灣
米ノ移入及ビ軍用米ニ付テノ補給金、
ソレカラ麥ノ價格補給金ハ、一般會計
カラ金ヲ受入レル、ソレガ前ノ條デア
リマスガ、一般會計ノ受入金ガ解消致
シマシタノデ、其ノ要ガナクナツタ
譯デアリマス、以下大體御分リニナル
ト思フノデアリマスガ、尙ホ參照條文
ヲ御覽ニナリマスレバサウ面倒ナコト
ハナイト思ヒマス

次ニ第六條、通信事業特別會計デア
リマスガ、是ハ先程御説明ニナリマシ
タヤウニ、電氣試驗所ニ於テ、強電氣
ノ仕事ガ出來ルヤウニ致シマシタ、從
來電氣試驗所ニ於テハ、強電關
係ト弱電關係ノ兩方ノ試驗ヲヤツテ居
ツタノデアリマス、弱電ノ方ノ系統ハ
通信事業本來ノ系統デアルト云フ意味
ニ於テマシテ、從來トモソコデヤツテ
居ツタノデアリマスガ、今回強電ノ方
ノ關係モ之ニ依ルコトニナツタノデア
リマス、強電ノ方ト申シマシテモサウ
大シタコトハヤツテ居ナイノデアリマ
シテ、電氣計器ノ檢定ガ其ノ主タルモ
ノデアリマス、斯ウ云フ規定ヲ置キマ
シテ、要スルニ電氣試驗所ノ事業ヲ全
部通信事業特別會計ニ入レルト云フ規
定デアリマス、次ニ「第二條第一項中」
云々トゴザイマスノハ、電信電話設備
ダケニ付キマシテ、從來公債ノ發行ガ
出來ルト云フ規定デアツタ譯デアリマ
スガ、ソレヲ郵便事業モ出來ルヤウニ
致ス爲ノ規定デアリマス、モウ一ツハ
出資拂込ニ付キマシテモ此ノ會計ノ負

擔ノ公債ヲ發行スルコトガ出來ルト云
フコトデアリマス、ソレカラ「第六條
中電信電話設備附」を「事業設備建
設附」ニ改める」是モ同ジコトデアリ
マスガ、是ハ通信事業特別會計ノ資本
勘定ノ歲入歲出ノ規定デアリマス、此
ノ歲入歲出ノ規定ヲ、先程申上ゲマシ
タヤウニ郵便事業ノ關係ヲ廣ク致シマ
シテ、其ノ爲ノ寄附モ受ケルコトガ出
來ルト云フ規定ニ致シタ譯デアリマ
ス、第九條ノ規定ハ豫備費ノ規定デア
リマシテ、從來ハ業務取扱數額ノ増加
ダケニ件ヒマシテ豫備金ノ支出ガ出來
タノデアリマスガ、今回ソレヲ擴ゲマ
シテ、避クベカラザル事由、主トシテ
災害ノ場合デアリマスガ、サウ云ツタ
場合ニ於テマシテ豫備費ノ支出ガ出來
ルヤウニ致シタ次第デアリマス、ソレ
カラ第十四條ノ二ハ是ハ現在同ジヤウ
ナ規定ガ帝國鐵道特別會計法ニアルノ
デアリマス、ソレト同様ニ、一般ノ委
託ニ依リマシテ機械類ノ製作修理ガ出
來ルヤウニ擴ゲタ譯デアリマス

第七條ノ簡易生命保險及ビ郵便年金
特別會計法ノ改正ハ、大體ニ於テマシ
テ外地關係ヲ整理致シマシタニ件フ整
理デアリマス

第八條ノ帝國鐵道會計法ノ改正ハ、
出資拂込金ガ出來ルヤウニ致シタノデ
アリマス、日本通運ニ對スル出資拂込
金ト云フモノモ一應豫想サレルノデア
リマシテ、ソレヲ擴ゲルコトニナツタ
譯デアリマス

第九條ノ國有財産法ハ、要スルニ十
九年度二十年度ヲ通ジマシテ、國有財
産ノ増減ノ決算ガ出來ルト云フコトデ
アリマス

第十條ハ、是ハ中央地方鐵道及ビ軌
道ガ賃率ノ引上ヲ行ヒマス時ニ、其ノ

一部ヲ鐵道ノ改良費ニ充テルト同時
ニ、其ノ他ヲ臨時軍事費ノ特別會計ニ
繰入レルコトノ出來タ規定デアリマス
ガ、ソレヲ一般會計ニ繰入レルコトニ
ナツタ譯デアリマス

附則ハ特ニ經過的ナ規定デアリマシ
テ、申上ゲルコトハナイト思フノデア
リマスガ、第十四條ニ於テマシテ外地
關係ノ特別會計ノ廢止ニ關スル規定ハ
勅令デ之ヲ定メルト申シマスノハ、外
地關係ノ色々ナ整理ニ付キマシテハ、
尙ホ未定ナ點ガゴザイマスノデ、色々
ナ問題ガ明カナリマシタカラ、必要ナ
規定ヲ作リタイト思ツテ居リマス、以
上ノ十分デアリマスガ、大體逐條的ニ
一應趣旨ヲ御説明申上ゲタ次第デアリ
マス

○坂東委員長 參考資料ノ要求ハアリ
マセヌカ
○太田(秋)委員 私共之ヲ舊法規ニ合
セテ調査スルニハ、餘程續イテヤラナ
ケレバナラヌノデスガ、アト二十二件
殘存スル分ハドウ云フ性格ヲ持チ、ド
ウ云フ事業ノ性質カ、ソレダケデモ何
カ書イテ御示シテ願ヘレバト思ヒマス
○坂東委員長 承知致シマシタ、ソレ
デハ今日ハ此ノ程度ニシテ置キタイト
思ヒマスガ、如何デスカ
(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○坂東委員長 ソレデハ本日ハ此ノ程
度デ散會致シマス、明日午前十時カラ
質問ヲ開始致シマス
午前十一時九分散會

昭和二十一年八月九日印刷

昭和二十一年八月十日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局